



第9図、第8図から求めた予想高度変化(—)と実測高度変化(-----)との比較

たが、偏西風が北に偏しており、この位相の変化が主導的な役割をしているものと解釈して北の部分で波長を決定したことがその結果の悪かった原因となっているものとも思われる。

なおこの方法を操作順に列記すると

- ① 現在までの平均図を作る
- ② 5日前の平均図からの変化量を求める
- ③ 波長を定める
- ④ 波速を定める

- ⑤ C_1 を求める
 - ⑥ $C-N$ を図式に求める
 - ⑦ C_1-N_1 を図式に求める
 - ⑧ $(C-N) - (C_1-N_1)$ を図式に計算し $2W$ を求める
 - ⑨ $(C-N) - W$ を図式に計算して A を求める
 - ⑩ W を波速で流す、 W_p が求まる
 - ⑪ $N_p + W_p + A$ を図式に計算して C_p を求める
- なお、この研究をするにあたって、いろいろ御指導くださった予報課の有住直介氏に感謝いたします。

参考文献

1. J. Namias, 1953: 最近の長期予報の進歩 天気 1. 8 (須田健紹介)
2. Headquarter in weather service, Washington D. C., 1954: A description of some methods of extended-period forecasting.
3. J. Namias, 1953: Thirty-day forecasting, a review of a ten-year experiment, A. M. S. meteorological monographs, 2, 6.
4. 高橋浩一郎, 飯田睦治郎, 1955: 700mb偏差図型の分類について. 研究時報 7, 11.
5. 正野重方, 河田好敏, 1955: 平均天気図, 数値予報中間報告 (1).
6. 沢田竜吉, 1955: 天気図解析の原理 予報研究ノート 6, 45.
7. J. Namias, 1951: General aspects of extended-range forecasting, Compendium of meteorology.

地区だより(北海道)

南極観測隊予備訓練始まる。

南極観測の本観測に備えて去る1月末から約1カ月にわたり道東根室測候所構内で予備訓練がはじまっている。中島博, 矢田, 川口, 立平良三の4氏は新装成った根室測候所に到着, 指導官の北岡竜海, 佐貫亦男, 上利周一, 鈴木茂, 井上力太の各氏指導のもとに我が国気象観測器の粋をこらした南極観測用測器の設置, 取付, 観測, 修理等の訓練を受けている。

今年の道東は雪も少く, 予備訓練としては些々条件が悪い様であるが既に御承知の高度角, 方位角の自記, 温湿圧の三要素の符号がプリントされるという日本電気製作にかかる国産 GMD-1 および水酸化アルミニウムと金属アルミニウムを用いた U. S. A 製輸入品の水素発生装

置等高気象観測機械の最新鋭機には陸の孤島, 我が国の最東端のへき地根室は眼を瞞っている。

地上気象観測器もエーロベン, 上利式温度計, デューセル上利式露点湿度計, エブリー日射計, ゴルチンスキー日射計等, 現用測器としては最先端の諸測器が設置されている。大体根室というところは周囲がひらけていて, 地形的に南極に似ているというような点で実用試験地として選定されたようであるが, 相憎く天候が良くウラらかな日和続きで, 余程条件が良くならない限り測器の着雪結氷が起りそうもない状況である。純低温ということであれば実験室ということにはなるのであろうが, やはり不測の事故に対する処置とか, 慣熟ということである以上やはり南極予備観測隊にとってはこの所続いている暖かさはまことにお気の毒である。(清水良作)